地域とともに

コミュニティ・スクール情報
～占冠中央小学校～

問 教育委員会学校教育担当 ☎ 56 - 2182

― 占冠神楽 ―

11月20日（木）、コミュニティプラザで、３・４年生が占冠神楽保存会の皆さんから占冠神楽を教わりました。これは、中学年が「総合的な学習の時間」において、占冠神楽について学ぶ活動の一環です。

子どもたちは、保存会の皆さんから楽器の演奏や踊りについて教わり、その後実際に道具や衣装を身に着け、サポートを受けながらも占冠神楽を最初から最後まで演じるという貴重な体験をすることができました。子どもたちが地域の伝統芸能を一生懸命に演じている姿が印象的でした。

今後は、占冠神楽について調べる活動や、教えてもらった演技を生かして練習を行い、保護者の方に披露する予定です。どうぞお楽しみに！

― 長生会・清流大学との交流 ―

←長生会との交流（宝石あつめ）

→清流大学との交流（防災ゲーム）

11月20日（木）に長生会と、11月27日（木）に清流大学との交流を実施しました。この活動は、ふるさと学習の一環として地域の人々への理解を深めることを目的に行われ、子どもたちは、地域のお年寄りの方々との交流を通して思いやりの心や親切心など多くのことを学びました。長生会・清流大学の皆さんからも積極的に話しかけてくださり、優しく声掛けしてくださったおかげで、温かく優しい気持ちで交流を楽しむことができました。

これらの交流を通して、子どもたちは地域の方に見守られていることを実感できたと思います。長生会・清流大学の皆さんに感謝申し上げます。

こちら駐在所です

問 占冠駐在所
☎ 56 - 2110

ストップ・ザ・交通事故
～変化する天候・路面に合わせた運転を！～

スピードダウンと慎重な運転

冬道には、圧雪、アイスバーン、ブラックアイスバーンなどさまざまあり、どの路面でも車はすぐに止まることはできません。

また、時間帯や場所によって道路状況は変化し、スリップ等による正面衝突や路外逸脱事故、追突事故が発生する可能性がありますので、スピードダウンと道路状況に合わせた慎重な運転に努めましょう。

悪天候に注意

吹雪による視界不良やホワイトアウトなどが発生した場合には、多重衝突など重大な交通事故につながる可能性があります。

悪天候の場合は不要不急の外出を控えるようにし、突然の視界不良等が発生した場合でも慌てることなく、スピードダウンで安全運転に努めましょう。

また、万が一の立ち往生等に備えて防寒具やスコップ等を車に準備しておきましょう。

時間に余裕を持った運転

天候や路面状況により、目的地まで予想よりも時間が掛かる場合があります。

時間に余裕がないと、先を急いで安全確認がおろそかになるなど交通事故につながる可能性がありますので、事前に目的地までの道路状況や天候を確認して、時間に余裕を持った行動を心掛けましょう。

「急」のつく運転操作は危険

急発進、急ハンドル、急ブレーキといった「急」のつく運転操作は、冬道における危険行為となります。

車を発進、停止させる際はゆっくりとペダル操作を行い、道路状況に応じたハンドル操作を心掛けましょう。

交差点の死角に注意

道路脇に雪山ができて見通しが悪くなります。

交差点に接近した際は、「車が来ているかもしれない」、「歩行者が横断するかもしれない」と予測するとともに、見通しが悪い場合は徐行しましょう。

火災・救急・救助 119

消防瓦版纏（まとい）

No.447

問 富良野広域連合富良野消防署占冠支署
☎ 56 - 2119

あなたの命を守るマイナ救急

救急出場状況（11月分）

交通事故	1件（ 2人）
一般負傷	3件（ 3人）
急　　病	5件（ 5人）
11 月 計	9件（ 10人）
累　　計	198件（170人）

※（　）内は傷病者搬送人員

マイナ救急とは、マイナンバーカードに健康保険証の機能を持たせた「マイナ保険証」を救急搬送時に活用し、医療情報等を閲覧する仕組みのことです。傷病者が会話困難でも、救急隊員が服薬情報や受診歴を把握し、適切な処置や搬送先の選定に役立ちます。

救急隊員は原則、傷病者の同意を得た上でマイナ保険証をカードリーダーで読み取り、病歴や服薬歴をタブレット端末で確認し、搬送先の選定などに活用します。

救急車を要請した場合は、救急隊が到着するまでにマイナ保険証をご準備ください。日頃からすぐに取り出せる場所に保管したり、家族と保管場所を共有しておくなど、ご協力をお願いします。

〈 マイナ救急の流れ 〉

①傷病者が情報閲覧に同意する → ②マイナンバーカードを読み取る ※暗証番号の入力不要 → ③隊員が医療情報を閲覧する → ④より適切な処置や搬送先医療機関の選定につながる

野生動物対策の状況

問 農林課林業振興室
野生鳥獣専門員
☎ 56 - 2174

エゾシカ

今年11月の駆除数は54頭と好調で、11月値としては過去最多となりましたが、12月以降は例年並みに捕りづらくなってきています。

牧草地によく出現していたシカは、積雪後にほとんど見かけなくなりました。積雪量はまだ少ない時期ですが、トドマツなどの常緑針葉樹やつる植物が生えていて、雪や風の影響を受けにくい場所で休憩しているようです。

ヒグマ

11月中旬に足跡の発見情報があって以降、12月22日現在、ヒグマに関する新たな情報はありません。例年11月～12月にかけて林道へ行くと、雪上に足跡を見かけますが、今年は早くに痕跡を見かけなくなりました。多くのヒグマは冬眠に入ったものとみられます。今年はミズナラが凶作でしたが、代わりとなる食物を食べ、冬眠に必要な栄養をしっかり蓄えられたのでしょうか。今後も引き続き、ヒグマの活動がないか情報収集に努めてまいります。

◆そのほか

12月から村の捕獲従事者として、新たに２人が加わりました。また、12月１日には、村の捕獲従事者７人が集まり、実射を含む捕獲技術研修を実施しました。当日は射場へ赴き、講師から射撃技術や安全管理について指導を受けてきました。今後も研修等を通じて技術の向上と安全確保に努め、適切な鳥獣被害対策を進めてまいります。